

Gastro-Health Now

認定NPO法人

日本胃がん予知・診断・治療研究機構

Certified Non Profitable Organization
Japan Research Foundation of Prediction,
Diagnosis and Therapy for Gastric Cancer (JRF PDT GC)

目次

- ◆ピロリ菌感染症の学校検診への導入……1
 - ◆鳥取県における胃がん内視鏡検診
10年間の検討……3
 - ◆あとがき・お知らせ……4
- 印刷 城南印刷工業(株) 03-3752-3391

発行所 認定NPO法人

日本胃がん予知・診断・治療研究機構

〒108-0072

東京都港区白金1丁目17番2号

白金タワーテラス棟 609号室

電話 03-3448-1077

FAX 03-3448-1078

E-mail info@gastro-health-now.org

http://www.gastro-health-now.org

2014.1.15

第29号

ピロリ菌除菌治療
胃炎も保険適用へ

ピロリ菌感染症の学校検診への導入

近年、ピロリ菌感染と胃がんとの因果関係が、疫学調査や動物実験だけでなく、臨床研究においても明らかになりました。また、除菌治療を行うことによって胃がん発生の危険性が減少し、さらに除菌治療を早い時期に行うほど（感染期間が短いほど）胃がん発生の抑制効果が高いことが判明しています。除菌治療を行うべき時期については専門医の中でも議論がありますが、私たちは学校検診にピロリ菌検査を導入することが有効な胃がん予防対策になると考え、2007年度より高校生を対象としたピロリ菌検診を毎年行っています。

ピロリ菌感染症の学校検診への導入

1. 一次検診

長野県内の某高等学校の第2学年の生徒全員を対象に、学校検診で提出される尿を用いてピロリ菌抗体検査で一次検診を行っています。2007年度から2012年度までの受診者総数で2652人中2641人（99.6%）と、受診率は一般社会で行われている検診に比べてきわめて高い結果でした。表1は年度別のピロリ菌抗体の陽性率を示しています。陽性率は年度によって多少差はありますが、全体では2641人中116人（4.4%）でした。

2. 二次検診

一次検診陽性者は学校医を通じて本人と父兄に通知し、医療機関への受診を勧めています。信州大学医学部附属病院を受診した場合は、本人と父兄に対して十分に説明した後、内視鏡検査を施行して培養法と鏡検法を用いて二次検診（精密検査）を行っています。こ

れまで一次検診陽性者116人中のうち60人が信州大学医学部附属病院を受診し、二次検診でも陽性であった症例は49人（81.7%）でした。ピロリ菌陽性者49例中39例（79.6%）に鳥肌胃炎（図a）を認め、24例（49.0%）に軽度の慢性萎縮性胃炎の所見がありました。また、十二指腸びらんを4例（8.2%、図b）、十二指腸潰瘍瘢痕を3例（6.1%）に認めました。



・地方独立行政法人長野県立病院機構
長野県立須坂病院内視鏡センター
・信州大学医学部消化器内科

赤松 泰次

3. 除菌治療成績

薬剤感受性試験の結果により抗生剤の種類を選択して除菌療法を行ったところ、未判定例3人を除く46例はいずれも1回の治療でピロリ菌の除菌に成功しました。

ピロリ菌感染症を全国の学校検診に導入した場合の費用対効果（表2）

私たちの試算では、ピロリ菌の学校検診を全国に拡大した場合、一次検診、二次検診、および除菌治療を併せた費用は毎年約31億円必要です。ピロリ菌に感染している人が一生のうちに胃がんになる確率は約15%であることがこれまでの研究で判明していますので、将来胃がんになると予想される1学年当たりの人

表1 一次検診におけるピロリ菌陽性率

年度	陽性者数	陽性率
2007	14/409	3.4%
2008	28/370	7.6%
2009	22/445	4.9%
2010	23/478	4.8%
2011	12/400	3.0%
2012	17/539	3.2%
計	116/2,641 (男:51, 女:65)	4.4%

表2 ピロリ菌感染症を全国の学校検診に導入した場合の費用対効果

1. 1学年当たりの総人口	1,250,000人
2. 現在の高校生のピロリ菌陽性率	4.4%
3. 1学年あたりのピロリ菌陽性者	55,000人
4. 1学年あたりの胃癌になると予想される人数 (ピロリ菌陽性者の15%が胃癌になると仮定)	8,250人
5. ピロリ菌の除菌によって胃癌が予防できる人数 (除菌による胃癌発生抑制効果を80%と仮定)	6,600人
6. 全国の学校検診に導入した場合の年間費用 (一次検診、二次検診、除菌治療を含む)	3,100,000,000円
7. 胃癌の予防に必要な1人当たりの費用	470,000円



a. 鳥肌胃炎

b. 十二指腸びらん

図 ピロリ菌陽性者の内視鏡写真

数は8,250人と推定されます。若年で除菌治療した場合の胃癌発生抑制効果を80%と仮定すると、胃癌が予防できる人数は6,600人と計算されます。1年間に必要な検診の総費用が約31億円ですので、胃癌の予防に必要な1人当たりの費用は約47万円と算出されます。ちなみに胃集団検診で胃癌を発見するのに必要な1人当たりの費用は約200万円といわれています。

今後の胃癌対策への提言

胃癌を撲滅するためには、中高年者に対する効率的な胃検診（早期発見による死亡率の低下：二次予防）と同時に、若年者に対するピロリ菌検診（胃癌発生の予防：一次予防）を行うことが必要です。除菌治療は胃がんだけでなく、消化性潰瘍やMALTリンパ腫などさまざまな疾病に対しても予防効果があり、医療経済的立場からみても費用対効果に優れています。近年の若年者におけるピロリ菌感染率の低下によって、ピロリ菌検診を全国の学校検診に導入しても実現可能な費用で行うことが可能で、今後公費を投入した対策をとるべきであると考えています。